

網干歴史講座では、令和8年7月18日に網干の興浜にある渡邊家住宅を訪問する機会を得た。渡邊家は旧丸亀藩の網干陣屋の東、興浜本町通りに面しており、旧丸亀藩士族の家柄であった。現在は株式会社あぼしまちみらい舎の所有になっていて、同社の東和恵さんに案内していただいた。内部は店の間や通り庭、広い座敷のある典型的な町家の造りになっている。表の通りからは塀があるのでよくわからないが、座敷に面して庭もある。台所の水屋には食器が今でも使用できるかのように積んであった。裏には土蔵があり、中も見せてもらった。筆者は20年ほど前に姫路市史編集室に勤める友人と共に来たことがあり、現当主の父に当たる聡(さとし)さんがまだご健在で、この蔵の中を案内してくださったことを覚えている。現在は蔵にあった史料等は、姫路市立城内図書館史料整理担当が渡邊家文書として管理している。

興浜在住の不二甲一郎氏のブログ(<https://okinohama.hatenablog.com>)によると、聡さんの祖父にあたる鼎(かなえ)さんは、嘉永元年(1848)12月にここ興浜で生まれ、明治6年から明治22年まで飾磨県、兵庫県、大阪府、に勤務し明治新政府の地方行政に尽力した。その後山陽鉄道会社に移り、用地買収等を担当したあと、逓信省に勤務、明治42年に網干に帰郷した。現在の渡邊家住宅はこの帰郷後に建てられたもので、明治18年に大阪で水害にあった教訓から、まず地上げをした後明治43年に普請したものである。地元では大覚寺の総代・顧問として活躍し、昭和6年に亡くなった。大覚寺には境内の石碑に鼎さんの功績が書かれており、放生池の大きな玉垣、本堂前の雨水枡の北側にも名前がある。南側には長男の巍(たかし)さんの名前が書かれている。巍さんは質屋を経営していた。店の間の様子はその時の名残であろう。昭和46年の住宅地図にも「渡邊質店」として載っている。

聡さんの妻の静子さんは昭和45年から54年まで網干校区連合婦人会長をされ、昭和55年から62年までは網干西校区連合婦人会長をされた。昭和59年には兵庫県功労者として表彰された。その時に奉納された神前鈴が金刀比羅神社の拝殿前にある。

現当主は晃(あきら)さんで、JR 西日本の執行役員として尼崎脱線事故後の処理にも尽力された。このように代々地域に貢献されてきた渡邊家の住宅を、ぜひ今後も守っていきたいと思った。

網干歴史講座会員 中川千里



↑ 渡邊家住宅表側



←大覚寺の由来と渡邊鼎の功績



←金刀比羅神社
渡邊静子奉納の神前鈴



大覚寺放生池の玉垣→